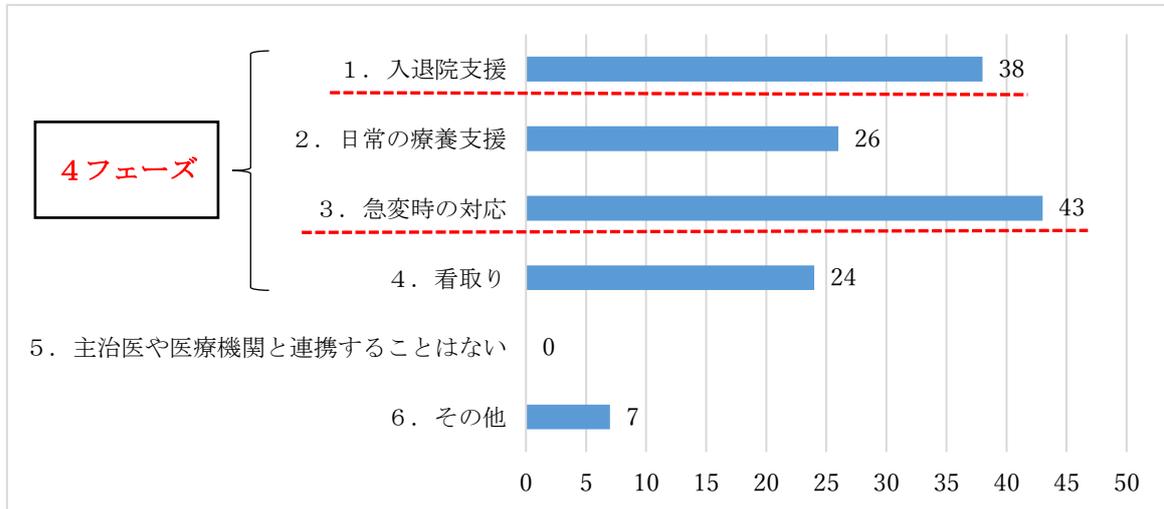


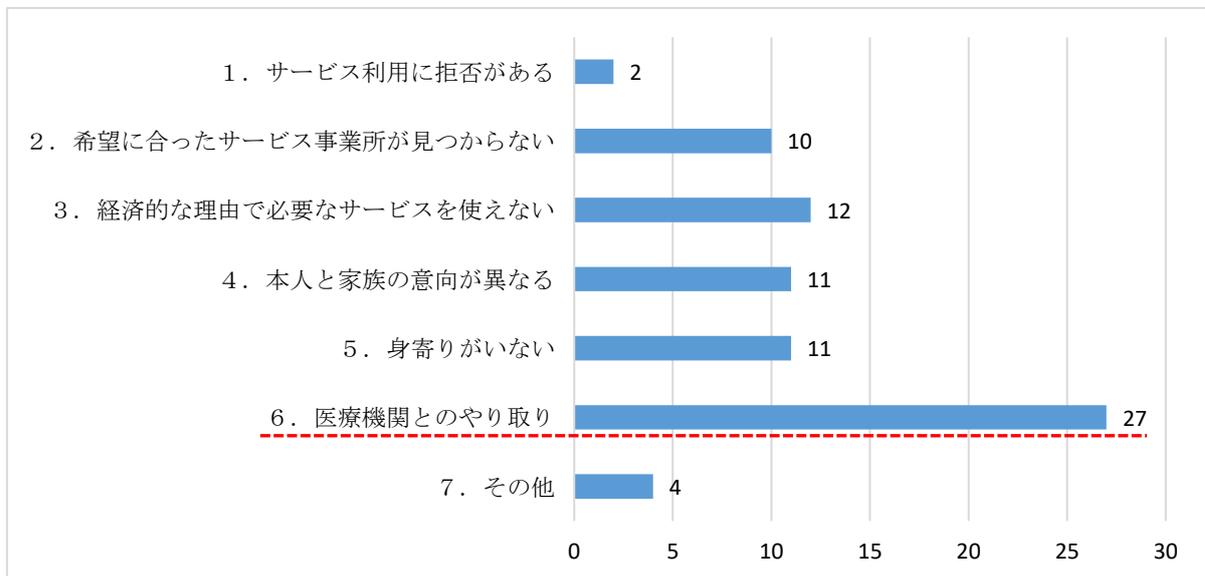
北上市在宅医療介護連携支援事業に関するアンケート（n=73）

（対象者：ケアマネジャー／4フェーズ関連の抜粋）

3. 医療と介護の連携についてケアマネジャーとしてどのような場面で困難さを感じますか。あてはまるものすべてをお選びください。



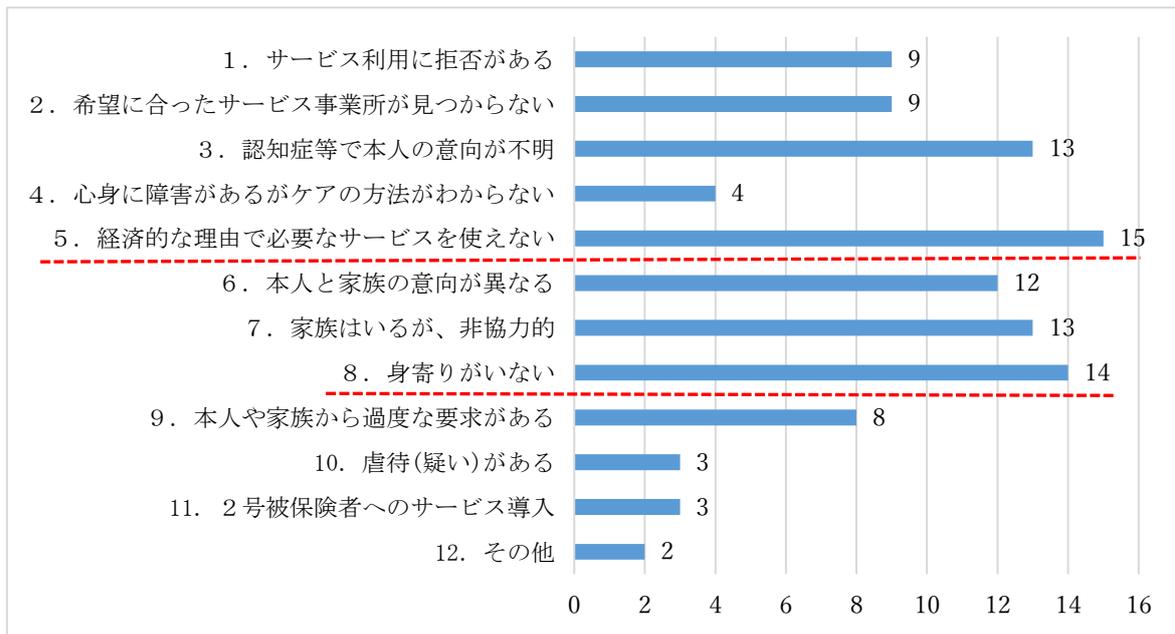
4. Q3で「入退院支援」と回答した方にお聞きします。どのような点において困難さを感じますか。あてはまるものすべてをお選びください。



その他

- ・家族に対して病棟と連携室の動きが異なると、家族や連携室と段取りのすり合わせに手間がかかる。
- ・事前に聞いていたADLと異なることがある
- ・入院中に面会できないために、ADLの確認や本人の意向確認をすることが難しい

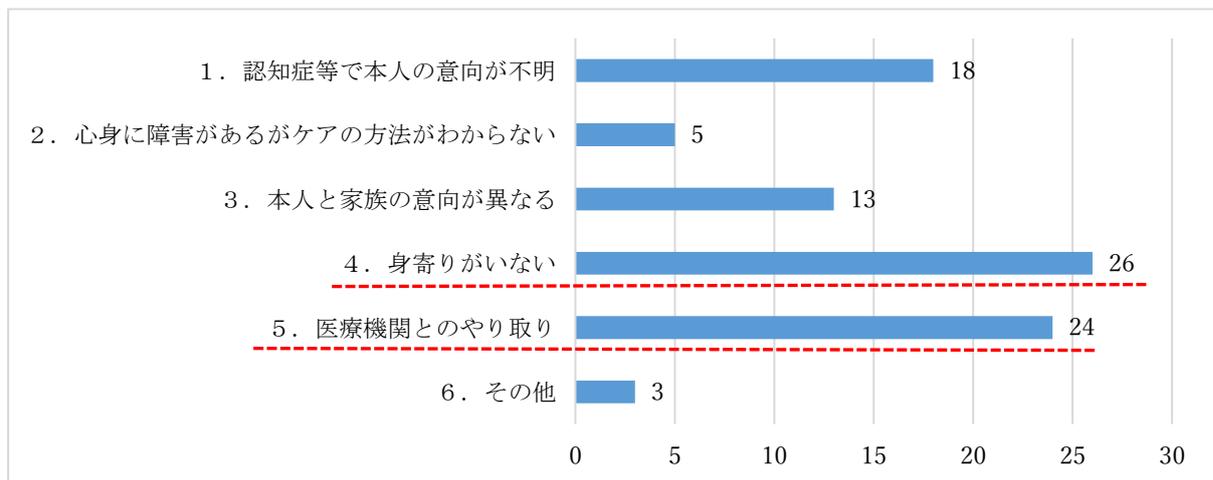
5. Q3で「**日常の療養支援**」と回答した方にお聞きします。どのような点において困難さを感じますか。あてはまるものすべてをお選びください。



その他

- ・病識が低い方への対応。透析患者の送迎。
- ・大きい病院に、外来患者さんの在宅情報を持って行っても、書類をたらい回しにされ、受け取ってもらえないことが何度もある。受付が派遣職員さんだと伝わらない。

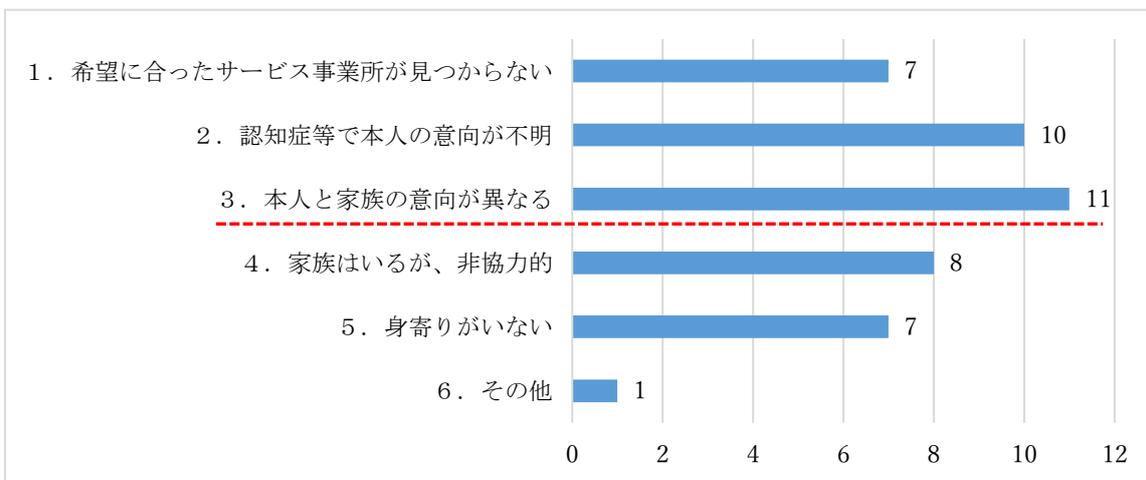
6. Q3で「**急変時の対応**」と回答した方にお聞きします。どのような点において困難さを感じますか。あてはまるものすべてをお選びください。



その他

- ・新型コロナ感染時に入院できないとき（介護施設では受け入れられず、サービス調整が困難になる）。かかりつけ医に急変時に連絡つかない。
- ・家族が遠方

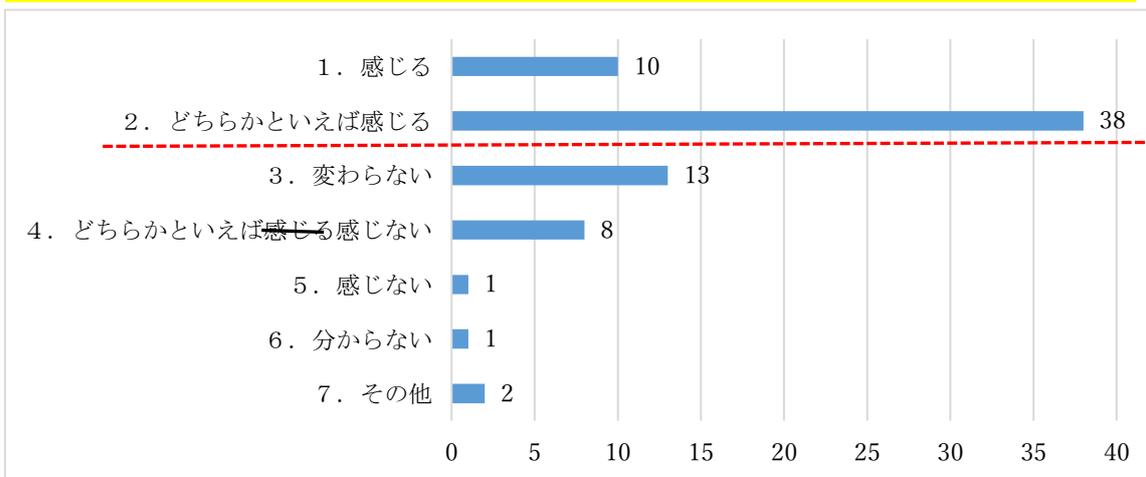
7. Q3で「看取り」と回答した方にお聞きします。どのような点において困難さを感じますか。あてはまるものすべてをお選びください。



その他

- ・医師から家族への病状説明が分かりにくい。家族が仕事をしており、介護休暇も取り難い職場もある。

8. 医療従事者と顔の見える関係や相談しやすい関係づくりは進んでいると感じますか。



その他

- ・訪問診療とは相談しやすい関係であるが、他の医療機関とはそうでもないです。
- ・医療機関により、差が大きいと感じる

「感じる」と回答した理由

- ・訪問診療と訪問看護を大体の入所者の方が利用しているので体調不良時など、その都度相談している為。
- ・不明な点は、電話、又は直接お会いした時にお聞きして、返答頂いているからです。
- ・病棟の看護師と直接面談させていただける機会が増えたため。
- ・病院からの問い合わせや相談が増えてきており、顔を合わせる機会が増えてきている為。
- ・ご利用者様のほとんどの方が、訪問診療を受診されておりますので、毎月直接アドバイス、指示を伺うことが出来る環境下にあります。

- ・細かく相談させてもらっている。こちらの立場も、ほぼ理解してもらっている。
- ・定期的に連絡を取り合う状況ができています。
- ・親切的な対応がある。
- ・医療連携室のMSW、退院支援看護師など担当者が明確になっており、窓口の担当者が決まっている事で相談のし易さや連携を図り易さを感じている。北上市在宅医療介護連携支援センターが発行している、年度毎の一覧表を下に連絡、相談が取りやすくなっていると思う。

「どちらかといえば感じる」と回答した理由

- ・医療機関に相談すると相談の時間を確保してくださるところが増えた。医療機関からケアマネへ連絡が来るようになった。
- ・介護、医療参加の研修会開催も増えた為
- ・様々な形で対面式の会議が開催されており距離感は近くなっていると思う反面、会議に参加しない(できない)人は関係づくりができていないのでは？と思う時がある。個人差、事業所差が生まれているのではないか。
- ・医師だけではなく薬剤師やリハビリ専門職に直接会って相談しやすい環境となりました。そのため幅広い支援をおこなうことができています。
- ・施設の協力医療機関との連携が密に取れており、いつでも相談に乗ってもらっている為。
- ・以前に比べると、医療従事者の方の理解があるようになったので、お話をすれば理解していただける環境になってきてきていると思う。
- ・多職種連携の講習会などに参加されているところとは連携が取れているが、医療機関によって参加されないところとは連携が取りづらい。関係づくりに対する意識の差が大きいと思う。
- ・相談でお電話しますと直ぐに対応して下さり適切な回答をいただき助かっております
- ・主治医や訪問看護、病院の相談員と連絡、相談できているため。支援する方向性が同じで同じ気持ちでご支援できているので相談しやすく感じます。
- ・主治医の回診時、細かいことも相談、報告できている。
- ・医療連携室などの対応で入院中や退院時の状態が把握できるようになった
- ・入退院時に医療機関相談窓口があることで相談がしやすい。
- ・利用者様の入退院時の際には、MSW、退院支援看護師の方より、情報をいただいておりますが、細目に連絡をいただいたりと、確認や相談をしやすいと感じております。
- ・退院時、入院中の状況を確認したいと思い、退院時カンファをしたい旨を伝えたが時間を取ってもらえなかった。
- ・医療相談室や退院支援看護師が窓口になってくれるので、相談しやすい。以前に比べると医療側も介護側もお互いにあゆみ寄っている感じがする。
- ・医療従事者と連携する研修などが増えてきている。
- ・会議や研修等で会う機会が増えているため。
- ・相談した際に真摯に対応して下さるので、関係性が築きやすい。
- ・相談窓口があり、電話での対応が、比較的スムーズです。医師との連絡もしやすい環境になってきている。

- ・往診時などこまめに連絡は取り合っています
- ・訪問診療ではケアマネの意見も聞いてもらえるようになった。研修においても連携の大切さを医療従事者から学ぶ機会も増えていると思う。
- ・直接先生とのやりとりにはまだ難しさを感じますが、病院の医療連携室や看護師を通すと相談しやすいと感じています。また、医療従事者との研修会などに参加することでより顔の見える関係ができています。
- ・病院から退院し在宅に戻るまでの一連の流れでは、医師や看護師との関わりがあり、スムーズに関係性を築くことができるが、医療系が強くなればなるほど、ケアマネには必要なサービス導入のみを求めらることが多くなり、阻害感を感じることもある。医師と看護師とケアマネがご本人やご家族に寄り添って最後迎えられるケースは増えつつあります。
- ・医療従事者にも介護との連携の必要性を感じて頂けていると思う。一人の患者様(利用者様)を連携して支援していく姿勢がみえる。
- ・市内の病院の相談窓口があり、連絡が行いやすい。在宅情報持って行った際に確認が行える。
- ・ケアラボなど関係づくりの取り組みが行われている。業務中でも、相談しやすくなったと感じる。
- ・ケース対応時には医療連携室と連絡を取り合うことができていると感じています。様々なケースを重ねることで顔の見える関係を作ることができたと思います。
- ・医療機関との研修会で交流する場面が増えてお互いの変さがわかるようになったため
- ・医療相談室があるところは連携がしやすい。
- ・どこの事業所でも相談しにくいことはないから。
- ・以前より、研修等で直接会って話をする機会が増えたように感じる。今後も継続して、相互理解が進んでいけば良いと思う。
- ・病院によりことなることがある
- ・入院中でも適宜状態についての連絡が頂けるため
- ・医療関係者が医療の視点だけではなく介護保険制度との繋ぎの支援の取り組みを感じるため。
- ・退院入院支援の方とのやりとりや電話等で大変話しやすく、顔を覚えて相談や情報交換がとてもスムーズと感じているから。
- ・医療とつながる機会が増えた。病院に相談室等、設置してあるため相談しやすい。
- ・個人病院の対応がしやすくなっている。
- ・回数を重ねる事で関係性ができていていると感じる。

「変わらない」と回答した理由

- ・コロナ禍後から新たに出会うきっかけが少ない。
- ・施設内勤務の為普段から関係性は作れている。
- ・電話でやり取りすることが多い場合、顔が見える関係ができていない。
- ・入退院の連携は良いが、カンファレンスの機会が少なく、内容も義務的になっているように感じるため。生活に即した指導もしてもらいたい。
- ・今までと大きな変化を感じない為。

- ・情報共有がうまく進んでいないように感じるため。
- ・老健入所利用者の入院等に関しては、施設長（医師）及び看護師にて医療機関との連携が主体。退院時、特に退院支援担当看護師との連携は図れている。
- ・難しいと感じることはありますが、以前から、相談すると親切丁寧に対応して下さることが多く、そういった意味で変わらないと回答いたしました。
- ・病棟看護師からの連絡が多くなっている。変則勤務のため翌日には担当看護師が変更になり、情報共有が難しい
- ・窓口があっても なかなか相談事が進まない時。窓口がはっきりしない。連絡先が複数になる時(相談室・病棟等)。外来の方々の相談で悩むこと有る。
- ・以前に比べ病院に呼ばれることは増えたが、退院前のカンファレンスなどこちらが提案しないと開催してくれないことが多い。急に退院と言われることも多く感じる。
- ・担当者によって対応の差がある
- ・人による

「どちらかといえば感じない」と回答した理由

- ・一言で医療従事者と言っても職種は様々で、医療機関の従事者に関しては温度差を感じる。退院後について、家庭の事情、経済的事情を考慮したら1, 2週間で退院を促されても決められない。有料老人ホームに空きがあってもひと月20万も費用が掛かるのであれば一般の人には簡単に勧められない。
- ・医療となると敷居が高い感じがしています。
- ・施設入居している方が退院となった時の連絡が急で慌てて受入する場合がある。前もって入院中の退院時期のめどや病状経過の連絡をいただければ助かる。
- ・以前に比べて、上手く連携取れていない感じがする。こちらがどこに繋がればいいのかわからない時に、適切なところに繋げてもらえない事があった。
- ・連携について双方の立ち位置が異なるため一方的に感じる事が有る。
- ・訪看の指示書で医師とうまい行かないことがあり苦慮したことがある。「誰が困っているか」考えて頂くことが出来る医師が増えることを願います。また介護保険をよく理解されず家族に話しをされる医師も・・・「ショートステイで点滴して貰ってください」等・・・
- ・総合病院等は医療相談室や連携室が窓口になり、幾分話しやすい時もあるが、相談しやすいとは感じない。また相談室や連携室がない病院は直に医師と話すことがある為、相談しにくいと思う。

「感じない」と回答した理由

- ・大きい病院に、外来患者の在宅情報を持って行っても毎回たらい回しにされる。受付、総合案内、相談室に回されるのを何分も待ち、最終的に書類を返されることもある。
- ・入院したときに、在宅情報を持参しても、いつまでたっても担当のSWが決まらない。直前に退院の知らせがくるなど。

9. 今後の医療と介護の連携について希望すること、必要なことがありましたらご自由にお書きください。

- ・連絡して良い時間帯や方法、窓口となる方等、医療機関側の相談体制についての最新の情報が欲しい。
- ・顔の見える関係づくりができる環境を今後も作って欲しい。
- ・医療と介護それぞれのプロセスが異なるため、双方にとって連携で求めるものも違うと思います。それでも、お互いの職域を知り積極的に関わりを持ち続けることは必要だと思います。実現は難しいかもしれませんが、現場の医療職の方と日ごろの業務のことや連携で悩んでいることを話し合える機会があれば参加してみたいです。
- ・グループホームで働いておりますが看取りを行っていないので、行っていない施設もある事を理解して頂ければ助かります。
- ・医療ソーシャルワーカー様に退院時に違う施設を探していただいたこともあり感謝しております"
- ・できれば医者と直接やり取りできるようにして欲しい。カンファレンスにも医者に参加してもらいたい。
- ・北上市には入院できる病院が少ないため、他市への転院となる。入院のできる病院が増えればよいと思います。
- ・情報の共有が、すみやかに出来るようオンラインでの対応が必要。
- ・医療・介護それぞれ、お互いが置かれている立場や業務を理解し尊重し合う姿勢が必要と感じています。
- ・医師との連携をどのようにしたらよいのか勉強したい。医師は介護にどんなことを望んでいるのか。
- ・入退院支援ハンドブックの活用、いわて中部ネットの利用促進、案内や周知等
- ・まずは病院内での連携をきちんと取ってもらいたい。